

---

**S h y \* W i n g \* S k y**

すもも

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

S h y \* W i n g \* S k y

### 【Nコード】

N 8 4 8 7 E

### 【作者名】

すもも

### 【あらすじ】

俺シャイだからさ、君に話しかけるの、超勇気いるんだよね。つか、毎日君を見るだけで幸せなんだけど笑……

今、君に伝えたい事がある。

今伝えないと、多分長いこと伝えらんないから。

だからすぐ行くから。

「・・・待ってるよ」

12月後半、この寒空の中、少年はひたすら自転車を漕ぐ。

「寒・・・!!」

中学時代で一番ハジケル時期、中2の少年、朝倉翼。

一見ただのチャランポランだが、ただのチャランポランではない。

好成绩、スポーツ万能、しかもサッカーや野球、水泳、卓球、長距離走など、さまざまな種目で大会で優勝している、スーパー少年なのだ。

おまけに高身長イケメン。

女子が黙っているはずない。

毎日毎日懲りずに翼に媚びる女子。

毎日毎日お弁当を作ってあげる女子（学校給食があるというのに・・・）

たくさんの女子がさまざまな手段で翼をモノにしようとする。

まあ、幼稚園の頃からこんなだったから、当の本人はもう慣れっこだが・・・。

こんなにモテるので、いろんな噂が流れる。

「もう20人以上と付き合ってる」だとか

「S プレイが好き」だとか「本当は未来人なんだ」だとか。

・・・すべて嘘である。単なる噂である。

翼は、今までの人生でたった1度も女性と付き合ったことがないし、童貞だし、れっきとした現代人である。

ただ、1つだけ本当の噂がある。

「朝倉翼は、栗田空のことが好き」・・・と。

この噂は割と新しいもので、翼本人がそれを耳にしたときは、もうホントびっくり仰天。

無理もない。自分が空のことを好きだとゆうことは、ずっと、自分の胸に秘めて、誰にも言っていなかったからだ。

言ってなかった、というより、言っに言えなかった。

なぜなら翼は今時流行りのシャイボーイ。

友達に相談したいのは山々なのだが、言えなかった。

では、何故バレたのか。

簡単なことだ。翼の行動がバレバレなのである。

授業中、後ろの席から彼女をガン見。空がちよこつと頭を動かすと、もの凄い勢いで目をそらす。

廊下ですれ違ったあと、3歩あるいて、ちらつと後ろを確認。もちろん空は振り返っていないが。

友達と話している時でも、横目で空の居場所を確認。話の内容が下ネタの場合、ボリュームを五十分の一倍する。

そんな翼のバレバレな行動を、普段から翼のことを見ている女子達が、見逃すわけがない。

噂になるわけだ。

女子達は「なんであんな子がいいのーッ！」

「いや〜〜！」

「うちの方が10倍可愛いのに・・・」

「諦めないわ!!」

「あんの糞アマがあああ!!」

・・・と、それぞれの不満を口にしていた。

確かに空は、他の女子と少し違っている。

翼を見てキヤーキヤー言わないし、むしろ見ない。

性格は、例えるなら、エ ア ゲ ンの綾 レ といったところだろう。

こげ茶のロングヘアに、透きとおった白い肌。目は二重でパッチリ。

容姿はア　カ似。

先ほど、「うちの方が10倍可愛い」と言った子の100倍可愛いだろう。

この美少女のことを幼稚園の頃から思い続けた、一途な美少年、翼。

今時流行りのシャイボーイなので、彼女にあまり話しかけることができないが、おそらく、毎日空と学校生活を送ることができ、幸せだったであろう。

少年のニヤケ顔が物語っている。

しかし、この幸せ顔の少年に転機が訪れた。

転校。

それも沖縄。ここ東京。



なぜって、

親が離婚。理由は父親の浮気。

だから、母がたの両親が住んでいる実家に帰る・・・とき。

ありふれた話のような気もするが、少年にとってショックがすごく大きかった。

いや、父と別れたことじゃなくて、当分空に会えないこと。

・・・父とはもう会えないかもしれないに・・・父よ、ご愁傷様です。

だいたい、学校が休みの土日だけでも精一杯だとゆうのに、何ヶ月も何ヶ月も空に会えないときたら・・・。

少年は悲しみに暮れた。枕をびっしょりにするほど泣いた。

非常に涙もろい少年である。

ちょうど、冬休みが始まったところだった。

そして気づけば、明日が出発日。

翼は悩んだ。悩みまくった。

朝6時に起きてずっと悩んでいた。

そして後悔しまくった。なんでもっと空と話さなかったんだろうって。

そして知った。

後悔しても無駄だったことを。だからこれからは悔いのないように生きようと。

少年は一步成長したのである。

むろん、新たに決心をしても過去には戻れないが。

少年は空に自分の気持ちをつたえようと思った。

しかし、しつこいようだが、翼は今時流行りのシャイボーイである。

とても告るなんて行為はできない。

しかし！

ついさつき、「悔いのないように生きる」と決心したばかりだ。

ここで、諦めては、バリバリ悔いが残る。

シャイボーイでも、男は男だ。

・・・時刻は午後7時。

翼は急いで洗面所へ行き、顔を洗い、歯を磨き、ワックスをつけた。

そして自転車に飛び乗り、栗田家へ向かった。

朝倉家からは母親の怒声が聞こえる。

そりゃそうだ。明日の4時には出発で、母や兄弟たちはみんな忙しく支度をしている。

そんな中、翼は何も言わずに家を飛び出していったのだから、母がキれるのは妥当であろう。

栗田家までは、長い橋を越え、浅倉家からは結構遠いはずだが、あつという間に着いてしまった。

自転車を止め、栗田家の前で佇む少年。30分ほど、棒立ち状態だった。

かなり怪しい。

しかし、そんな告る前の、予想を遥かに超える極限の緊張の中でも、翼は言う事を整理していた。

あと、あともう少しで……ってところで、いきなりドアが開いた。

空だった。

予期せぬ出来事に固まる翼。さすがシャイボーイ。

『……さっきから何？朝倉君。』

「え、え、何って、」

気付かれていた。まあ、2階の空の部屋から翼は丸見えだったということだ。

『何か用？』

さすが綾 レ そっくりさん！

しかし、絶対に翼と目を合わせようとしない。

「お、俺明日、沖縄・・・行くんだよね・・・」

翼も翼で、ずっと下を向いている。

『旅行？』

「いや、俺、転校することになったちゃったんだよね。沖縄に・・・だから、」

・・・ずっと下を向いてしゃべっていた翼はハツとする。

地面に黒い斑点が、ポツポツとできてくる。

雨かな、と上を見上げるが、違かった。

『・・・転校、するの・・・？』

・・・あまりにもびっくりして、一瞬、時が止まった気がした。

だって、あの空が泣いているから。

『そんな・・・やだよ！！』

あの空が声を押し殺して、泣いているのだ。

「転校する」その一言で、一瞬にして空の人格が変わった。

綾レは一体どこへやら・・・。今はただの駄々っ子だ。

『やだやだ！朝倉君のいない毎日なんて糞以下だよ！』

翼はただ呆然とするしかなかった。

あの空が、自らの口から・・・糞？

いやいや、そうじゃなくて、泣いてる・・・？

いや!!そうじゃなくて・・・俺のいない毎日なんて糞・・・?

「そ、空・・・それってもしかして・・・」

『・・・す、好きなの!!』

空はわんわん泣き続ける。

その横で翼は足の先から頭まで、全身真っ赤にしてしゃがみ込んだ。

告白をしに来たのに告白されるとは・・・。

実はこの少女、栗田空もシャイガール。

そっけない態度をとっているが、それは全て照れ隠しのため。

だから自分の部屋の窓から翼が見えた時はもう大興奮!!

ゆでダコ状態になったと・・・。

翼のところへ行こうとしたが、このタコ顔では絶対行けない。

なぜなら彼女はシャイガール。

鏡の前で苦戦すること40分。

やっと作れたポーカーフェイス。

しかしその努力も水の泡。

今は真っ赤つかでぐちゃぐちゃな、ゆでダコをさらにゆでた状態。

顔は・・・猿？

美少女の欠片も残っていない。

『私、幼稚園の時から、ずっと朝倉君の事好きで、・・・でも私こんな性格だからしゃべれなくて。朝倉君も、なかなかしゃべりかけてくれないから、私に興味ないのになって、ずっと思ってた。・・・でも、毎日朝倉君に会えて、声が聞ける。これだけで幸せだなんて、思ってた。』

・・・まったく翼と同じである。すべて。

『でも今、後悔してる。・・・勇気を出して、もっといっぱいしゃべれば良かった。もっといっぱい、しゃべりたかった・・・！』

まったく同じであった。

ただ、ふたりともあと一步が踏み出せないだけだった。



『・・・ねえ、朝倉君？どうしてここに来たの？』

少女は鈍感であった。

告白されるなんて、みじんもおもっていなかった。

だからこそ、自分からしたのかもしれない。

「お、俺は、・・・えと、何しに来たんだっけ？」

あまりにびっくりするような事が起きまくって。翼の頭はパニくっていた。

確か俺、告りにきて・・・

そしたら空が泣いて？

幼稚園のころから俺が好きと。

もつと俺としゃべりたかった・・・？

空が俺に・・・告白？

「ああッ！」

翼はものすごい勢いで立ち上がった。

「す、好きです！！俺も！幼稚園の頃からずっと・・・！」

やっと頭が正常に働いたのか。

「転校なんてしたくないけど、しょうがないから、俺と、長距離恋愛してくれませんか！」

空は、大きい目をさらに大きくした。

『よ、喜んで』

空の少し裏返ったような声は、翼の奥の奥まで届いた。

そして泣いた。なんともいえない感情が込み上げてくる中、栗田家の家族が窓からこちらを見続ける中泣いた。

涙もろいところもそっくりだった。

シャイで、シャイ過ぎる2人は、今、改めて向かい合う。

『最初からこうだったら良かったのにね。』

「確かに。俺ら二人揃ってシャイだったみたいだな。」

・  
・  
・  
・  
・

翼は気づく。ムード的に、、キスをしなればいけないような空  
気になっていることを。

でも彼は・・・

「今度絶対こっち来いよ！待ってるからさ・・・」

・・・キスは今度までお預け

なぜなら彼は、、

『別に行つてあげても構わないけど？』

そして彼女も、、シャイだから

そして、2人の長距離恋愛は始まる・・・。

どちらともシャイなので、どちらが先に連絡をとるか悩みまくった  
とき

シャイな2人に幸福あれ

おしまい



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8487e/>

---

Sh y \* Wing \* S k y

2010年10月14日06時48分発行